

# 多職種合同ケアカンファレンスの ただひとつの 理念



「おだやかな暮らし」「ささいな幸せ」「真の豊かさ」  
ふつうに暮らせるしあわせをいかに守り支えるか



## 豊明市 多職種合同ケアカンファレンス

# グラウンドルール 3Ground Rules

### ① オープンカンファレンス式

参加自由（無報酬） アドバイザー不在（対等な関係）  
それぞれの専門分野の英知の結集

### ② ケーススタディ型

よくある症例を検討 この方「で」考える 次に活かす

### ③ 「生活モデル」に基づくディスカッション

暮らしを支える視点で検討 議論ではなく対話重視

# 要支援 1.2.事業対象者の 支援イメージ

「卒業しなくてもいい」ふつうの暮らしに戻す支援

一時的な  
活動追加

## PLUS 集中介入期(非日常)

元気アップ集中リハビリ等  
(総合事業、介護予防給付)



日常生活へ移行



## BASIC 基本メニュー(日常)

- ・まちかど運動教室・サロン
- ・趣味のサークル、友人つきあい
- ・普段の家事等の役割
- ・市場サービスの利用  
(フィットネスクラブ、ショッピング、娯楽、喫茶店、温泉、旅行)



以前の暮らし  
普段していたこと  
しなくなったこと

専門的支援Start

3~6Month

1Year

公的保険サービスと保険外サービスを当初から併用利用で支援開始  
暮らしの場における外出を促すことで活動量を増やし、普通の暮らしへ戻していく

# できるだけ本人の「普通の暮らし」を守る そのためには？

## 再入院・施設入所リスクを防ぐ



### 廃用・重度化予防

- 本人の「よくなりたい」という意欲を引き出す
- 廃用予防**(運動、リハビリ)、**医学的管理**(通院・服薬)、**栄養管理**(食事・水分)を指導

## 自宅での生活が成り立っている



### 生活支援・自立支援

- こんな生活をしたい**を実現するため、**できないところだけ**を支援
- 制度になくても生活に役に立つものを見つける、探す、創り出す

# 議論のポイント

**① 本当の課題（解決すべきこと）は何ですか？**

本人にとっての普通の暮らしとは？それを阻害する要因は？  
(現状とありたい姿のギャップから課題を特定)

**② この支援方法で 本当に解決できますか？**

サービスは現状とありたい姿の  
ギャップを本当に解決できるのか

# 普通の暮らしを取り戻す（自立）支援には



## 1 現状分析

なぜ今の状態になったのか？

## 2 目標設定

どんな暮らしを目指すのか？

## 3 「本当の課題」の抽出

解決すべきことは何か？

本人・家族が課題と向き合い、行動変容を起こす

取り組むべき本当の課題を見つけるには

「なぜ」を何度も繰り返す

「本当に解決できるのか」を考える

# 多職種合同ケアカンファレンスの進め方

項目	所要時間 目安	ポイント
プラン説明	3分	○現在の状況に至った要因（個人因子・環境因子）を簡潔に説明 ○生活機能評価の説明→改善可能なポイントはどこか？ ○上記を踏まえたプランと3ヶ月（6ヶ月）の到達地点を説明
事業者からの 支援方針説明	1分	○サービス事業者から改善可能なポイントを補足
質疑・意見交 換	15分	○参加者は、自らの専門分野を中心に内容をチェックする 保健師・看護師－想定される医療上のリスク、注意点、服薬内容 社会福祉士－独居、認知症等に対する権利擁護的な視点 理学療法士－疾病特有の予後、機能改善のポイント、生活上の注意点 主任ケアマネ－自立支援に資するプランか、サービス量は適当か
まとめ	1分	○支援方針まとめ